

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271402051
法人名	有限会社 ナーク
事業所名	有限会社 ナーク グループホーム小浜きたの
所在地 (電話番号)	長崎県雲仙市小浜町北野1048-2 (電話) 0957-76-0177

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21人	常勤	9人, 非常勤 12人, 常勤換算 4.9人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	木造平屋造り	
	2階建て0	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	4,500 円	
敷金	有() 円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(19年10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 83歳	最低	60歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立新小浜病院、愛野記念病院、ひらゆ医院、茨尾歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海、山、空の眺めを贅沢に楽しむことができる立地にホームは位置しており、裏庭には緑が広がっており、木々が色づき、鳥のさえずりも聞こえてくる。入居者が自ら、玄関の掃除や、植木の剪定、草花の手入れをし、来訪者への心配りを続けている。日々、法人代表、顧問、部長、管理者、医療連携看護師、職員全員でケアを通して話し合い、入居者第一の姿勢を基本とするケアの取り組みを続けている。地域に密着したホームであるために、毎年、ホーム内の和室でお茶会をおこない、地域の方々に、お茶券を配布しホームに来ていただいている。また台風の時期は、ホームを避難場所として開放し地域の方々にとっても安心できる場所となっている。特に19年度からは、代表とともに、運営上の相談役である顧問を中心に、組織的な運営の取り組み、業務改善を目標にし、他職員ともチームを結束したホームを作りはじめている。運営者である代表は、職員育成の大切さを理解し、年に10回ほど組織全体で研修をおこなうなど、職員への育成にも取り組んでいる。医療面、接遇面など、外部講師にも来ていただき、よりレベルアップできるように努めている。利用者と同じ目線で利用者のお話を傾聴し、食事づくり、散歩、ドライブ、入浴時など職員と利用者が一緒に過ごす時間を大切に、その時間のなかで利用者と言語合い、お気持ちをわかるように努めているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 昨年度の外部評価時の要改善項目に関しては、全職員で改善策を検討し、「改善計画書」を作成した。改善項目の中の「緊急時対応」については、ホーム内の医療連携看護師から、全職員が緊急時の対応についての研修を受け訓練を重ねている。より質の高い介護をめざして職員全員で取り組みをおこなっている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今年度の自己評価、外部評価に関しては、代表より、日々の業務がマンネリ化しないように振り返りをおこなうと説明をおこなった。まずは、代表、管理者などで自己評価票を記入したあと、職員に追加・補修などがないか確認をおこなっていった。来年度は、自己評価を職員全員でおこない、業務の振り返りをしていきたいと考えている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議のときには、毎回、日々の暮らしぶりや行事がわかるように代表から説明をおこなっている。よりグループホームのことを理解していただきたいと、会議の時に、他グループホームの運営者を講師として来ていただき、ホームの顧問からの説明も交え研修形式でおこなった。参加者からも、現在、自治会でおこなわれている防犯対策に関する提示をしていただき、ホームの方々も「地域の避難場所を使っていた方がいいですよ」と言う意見をいただいた。今後は、利用者の参加も検討していく予定である。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 平成19年9月29日に家族会が発足した。年2回、お茶会の時に集まり意見交換をおこなっている。「職員の顔写真がほしい」という意見をいただき、さっそく作成している。ホーム内の研修を受けて「家族として、ホームにお願いなどをしていいのかなと思ってしたが、顧問さんのお話を聞いて良く理解できた」などの意見、感想をいただけるようになった。また、家族が、ホームを来訪時、なるべく代表、職員は、家族に声かけし、繰り返し要望を言っていたらいいよう働きかけている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のお祭り、文化祭など、職員、利用者とともに参加している。保育園より、行事の招待状をいただき利用者も楽しみに参加している。地元のお店で買い物をするようにしており、自然と顔なじみの方も増えてきている。また、代表が中心となり、ホームの和室でお茶会をおこない地域の方を招待している。16年より自治会にも加入し、自治会長より直接地域の情報など連絡をいただけるようにも、ホームたよりも地域に回覧していただけるようになった。災害時は、地域の方々との避難場所としてホームを活用していただくなど、地域に根ざしたホームとなる努力を続けている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療に携わっていた代表のご両親の考えをもとに、「老いても障害を持っていても自分らしく当たり前に暮らしたい」と言う理念を作った。「・・・当たり前に・・・」と言う言葉の中には、「地域の中で・・・」と言う思いがこめられており、現在も大切に職員に伝え続けている。同じ敷地でご両親が医院をおこなってきたので、地域の方々とのつながりをさらに深め、地域の中で安心して生活を継続できるよう取り組みをしていきたいと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議の中で、代表が理念に関する話を一つ一つ丁寧に説明している。また職員の採用のための面接時も、代表から理念に関する説明をおこない、入社時から理念の共有に努めている。職員は理念を理解しており、利用者に対して「言っではいけない言葉」をかなり意識して日々のケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭り、文化祭など、職員、利用者とともに参加している。保育園より、行事の招待状をいただき利用者も楽しみに参加している。地元のお店で買い物をするようにしており、自然と顔なじみの方も増えてきている。また、代表が中心となり、ホームの和室でお茶会をおこない地域の方を招待している。16年より自治会にも加入し、自治会長より直接地域の情報などの連絡をいただけるとともに、ホームたよりも地域に回覧していただけるようになった。災害時は、地域の方々の避難場所としてホームを活用していただくなど、地域に根ざしたホームとなる努力を続けている。	○	今後、ホームが、より地域の方々との交流ができるよう、小学校や中学校の子供たちとの交流をはかっていきたいと考えている。また、地域の文化祭に、利用者の作品を出品していきたいとも考えている。今後、さらに地域の一員となる取り組みがおこなわれていくよう取り組みを期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の外部評価での要改善点は、全職員で改善策を検討し、「改善計画書」を作成した。より質の高い介護をめざして職員全員で取り組みをおこなっている。今年度の自己評価、外部評価に関しては、代表より、「日々の業務がマンネリ化しないように振り返りをおこなう」と説明をおこなった。まずは、代表、管理者などで自己評価票を記入したあと、職員に追加・補修などがないか確認をおこなっていった。	○	来年度は、自己評価を職員全員でおこない、業務の振り返りをしていきたいと考えている。職員を数人ずつのグループに分け、項目ごとの分野をグループ毎に担当してもらい、それをまとめていくなど、具体的な対策も検討されている。来年度は、さらに全職員が、じっくり自己評価をおこない、業務への振り返りが深くおこなえる可能性もあり、今後の取り組みに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のときには、毎回、日々の暮らしぶりや行事がわかるように代表から説明をおこなっている。よりグループホームのことを理解していただきたいと、会議の時に、他グループホームの運営者を講師として呼びびして、ホームの顧問からの説明も交え研修形式でおこなった。参加者からも、現在、自治会でおこなわれている防犯対策に関する提示をしていただき、「ホームの方々も地域の避難場所を使っていたでもいいですよ」と言う意見をいただいた。	○	研修の時には、利用者も参加し一緒に勉強をしてみたが、日頃は、参加者の中に利用者は入っていない。今後、お茶会形式のような形で、利用者も一緒に参加し、少しでも利用者の方々の会話ができる取り組みができていくことを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	代表が、市役所の窓口にかがいがいホームの状況を報告したり、ホームたよりを持参している。ホームの開設前には、地域の人口動態や産業、廃棄物処理の方法などを相談すると、市の方が丁寧に教えてくださった。また小浜町支所主催の地域ケア会議にも参加している。	○	今後は、地域ケア会議の中で、ホームの取り組みを伝えていくとともに、事例発表をおこなっていくことで、もっと市役所の方に、ホームの取り組みを理解していただきたいと考えている。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	笑顔の表情を撮影した写真を家族にお渡ししたり、また、面会時には家族のお話を良く聞きながら、日頃の生活の様子を個別に伝えている。面会時と合わせて、電話や文章での報告をしている。状況によっては部長が自宅を訪問し、家族とゆっくりお話しをする機会も作っている。金銭の収支も毎月報告している。	○	今後、家族会の活動を通して、さらに報告を密におこなっていくとともに、ホームたよりの発行回数を増やしていきたいとも考えている。家族が知りたいと思っている情報を個別にお伝えしていけることを期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成19年9月29日に家族会が発足した。年2回、お茶会の時に集まり意見交換をおこなっている。「職員の顔写真がほしい」という意見をいただき、さっそく作成している。ホーム内の研修を受けて「家族として、ホームにお願いなどをしていいのかな」と思っていたが、顧問さんのお話を聞いて良く理解できた」などの意見、感想をいただけるようになった。また、家族が、ホームを来訪時、なるべく代表、職員は、家族に声かけし、繰り返し要望を言っていたらよい働きかけしている。	○	代表は、「家族の方は、ホームに対して遠慮をされておられるのでは・・・」と感じている。家族の方にもっと意見を言っていただきやすい場を積極的に作り、話し合いができる場面を増やしていきたいと考えている。ホーム側の思いが家族に伝わり、お互いのコミュニケーションがより深まっていくことを期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者である代表は、職員の異動はさせたくないと考えているが、職員の経験を積ませるためや、スキルアップのため、馴れ合いを防ぐためにも必要時のみ異動を考える時もある。運営者、管理者ともに、馴染みの関係の重要性を理解し、職員教育にも力を入れている。基準以上の人員配置をおこなうとともに、職員の休みの希望に極力、応じている。代表や管理者が、職員の個人面談をおこない、課題があれば一緒に考えるようにしている。	○	職員一人一人が馴れ合いにならず、ホームの理念を拠りどころとしながら利用者主体の介護を実践していくと言う共通の目標に向かっていけるよう、そして仕事のやりがいにつなげていけるよう、代表は職員の支援をおこなっていききたいと考えている。職員全員で話し合いを続け、「介護」の原点を見つめ続け、自分たちの目標を明確にしていくことで、さらなる結束が生まれてくることが予想される。あきらめない姿勢で今後も取り組みを続けていけることを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者である代表は、職員育成の大切さを理解し、年に10回ほど組織全体で研修をおこなうなど、職員の育成に取り組んでいる。医療面、接遇面など、外部講師にも来ていただき、よりレベルアップできるように努めている。外部研修にも参加できるようにし、参加者は、定例会の時に、資料を他職員にも配布し、内容を伝達している。現場では、代表、管理者、医療連携看護師などが、医療面のアドバイスを含めて職員指導にあたっている。	○	今後、さらに、各職員の経験、習熟度に応じた職員個別のレベルアップをしていきたいと考えている。経験年数別の研修なども実施していきたいと考えており、さらなる質の向上に向けた取り組みがおこなわれていくと思われる。今後を期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者である代表は、同業者との交流をおこなっていく必要性を理解しており、NPO法人島原ケア研究会や雲仙支部ケア研究会などに職員を参加させている。研修会への参加、事例検討会、情報交換などもおこなっている。	○	現在、ホーム同士の訪問は、主にこちらからの訪問が主になっている。今後は、相互訪問ができるように取り組んでいきたいと考えており、他のホームの方も見学に来ていただけるような取り組みをしていきたいと考えている。各研究会に相互訪問の提案をしてみるなど、地域の同業者全体で質の向上につなげていけることを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者の自宅を訪問し馴染みの関係を作るよう心がけている。ご本人にも、ホームを見学していただき、少しずつ慣れていただくような配慮をしたり、職員と信頼関係を築けるように努めている。利用者主体で入居ができる努力を続けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から、料理、子育ての仕方、物の大切さ、戦時中の食事、昔の体験、経験、考え方、他人に対する思いやり、気づき、動作など、たくさんを教えていただいている。職員が励まされる場面も多く、その都度、職員は、感謝の気持ちを利用者伝えていく。また、お一人お一人の悲しさ、辛さにも寄り添い、その方に応じた声かけ、対応を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者のお気持ちを把握していきたいと全職員は望んでおり、お一人お一人、個別に話しやすい場を作り、思いの把握に努めている。利用者と同じ目線で利用者のお話を傾聴し、時には夜勤の時、安心につなげるため、隣に一緒に横になることもある。他、食事づくり、散歩、レクリエーション時、ドライブ、入浴時など、職員と利用者が一緒に過ごす時間を大切に、その時間のなかで語り合い、お気持ちを知るように努めている。生活歴も大切に、行動、表情から思いを汲み取る努力も続けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、日頃の関わりの中で、あらかじめご本人、家族の意見、希望を聞きながら、かかりつけ医と相談した結果も踏まえ医療連携看護師も含めて、皆で話し合っで作っている。「地域で暮らす」という視点も盛り込み、その人らしく暮らし続けるための個別計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状のモニタリングのため、1ヶ月に1度、ミーティングの中で、全利用者の評価をおこない記録に残している。利用者、家族にも新たな希望が生じていないか常に声かけている。変化が生じた時は、見直しの設定した時期の前でも、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム内に医療連携看護師が配置されており、体調で気になることがある場合も、細やかに職員は相談をおこなうことができる。通院時も、医師、看護師、職員の間で細やかに情報交換ができています。入居者や家族の要望に応じて、入院中も、医師などと情報交換に努め早期退院をはかるなど、柔軟な対応をおこなうことができます。各入居者の要望に応じて、買い物、自宅に帰りたいなどの要望がある時は職員が同行を行っている。また地域の方からも介護に関する相談を受けたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族などの要望を聞き、希望によっては以前からのかかりつけ医で受療していただいている。すべてのかかりつけ医とは、日頃から情報交換を密にし、信頼関係を築いている。通院時は職員が通院介助をしているが、結果は医療連携看護師から家族に報告している。	○	今後は、終末期の対応に向けて、24時間の連携が取れるようさらに医療機関との話し合いを続け、さらなる信頼関係を築いていきたいと考えている。医療連携看護師などを中心に、医師との間で、より利用者の情報を共有でき、的確な医療面のアドバイスをいただけるようになるよう期待していきたい。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	いつまで、ここ(ホーム)で生活ができるのかを心配される家族もおられるので、入居時に、「終末期にも対応している」ことを、全家族に伝えている。体調に応じて、医療連携看護師を中心にしながら、利用者、家族、医師などと繰り返し話し合いを続け、全員で方針を共有できるように努めている。	○	今後、もっとホームとして終末期に対する方針の話し合いを進めていくとともに、利用者、家族にも、終末期への意向確認をしていきたいと考えている。医療機関(医師)との詳細な打ち合わせを続けるとともに、ホームでの終末期の対応マニュアルを整備していきたいとも考えている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が、入居者の居室を入室する時は、必ず声かけをおこない、その方に応じた話し方を気をつけている。否定的な言い方はしないようにしており、職員も意識してケアに取り組んでいるが、今後も指導的な態度、否定的な態度はしないよう取り組みを続けていきたいと考えている。個人情報に関しては、個人の話をするときは他に聞こえないよう配慮するとともに情報の漏洩防止にも努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は無理強いをすることなく、利用者が望む事に応じるようにしている。利用者と同じ目線で声かけをし、スキンシップをはかりながら、その日の過ごし方の希望を会話の中から聞いている。「何か仕事はないね～」と利用者の方から希望を言ってくださる方や、朝の神様のお参りから始まり、お料理、配膳、散歩と、毎日の日課、役割がある方も多く、自主的に動いてくださる方も多。なるべくご本人のペースで自由に行動していただくようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に献立を考えたり、買い物、下ごしらえ、味見、盛り付け、配膳、箸おき、食後の片付けなど、利用者お一人お一人の力に応じて手伝っていただいている。時々外食したり、旬のものや菜園で取れたネギ、きゅうりなども利用し調理している。彩りにも配慮するとともに、同じテーブルで職員も一緒に食事をしており、楽しい会話の中で楽しい食事となるよう毎日心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、週に3回を原則にしているが、時間が許す限り毎日でも入浴は可能になっている。体調に配慮しながら、好みの湯温や時間などの希望を大切にしている。一人ずつの入浴をしていただいております。羞恥心への配慮として、同性介助にする時もある。菖蒲湯やゆず湯をおこなうなど、入浴を楽しむ工夫もしているが、入浴時の職員との会話も、ゆったりとした心地よさにつながっている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームから見える海、周辺の山々、緑、空は、何よりの気晴らしにつながっているが、利用者の方々に、長年培ってきたお力を発揮していただけるよう、料理、洗濯物たたみ、軍歌を歌っていただく、和裁、魚のえさやりなどをしていただくなど、日常生活の中で役割や楽しみ等を持っていただくことで表情も明るく、気持ちも明るくなられている。その時その時のお気持ちを大切にしながら、楽しい生活となるよう職員も取り組みを続けている。	○	利用者の作られた作品が増えてきており、その作品を文化祭に出品していきたいという予定がある。新たな目標ができることで、普段の暮らしにも活気が出てくる可能性もあり、お力を発揮できる場面作りが、さらなる社会交流につながっていくことを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居する前から良く行かれていた、美容室、スーパー、神社、花見の場所など、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は対応している。利用者が嬉しそうな表情になられるのが職員も嬉しく、職員も一緒に外出を楽しんでいる。なるべく要望をお聞きし、利用者本位の外出ができるよう支援している。	○	今後は、もっと回数を増やしていきたいと考えている。毎年、年間事業計画の中で、外出の行事も入っているが、さらにお一人お一人の外出予定も作っていくなど、楽しみがさらに増え「地域で当たり前暮らししていく」ことを支援していく取り組みが続けられることを期待していきたい。
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝7時から夜20時頃まで開放されており鍵はかけておらず、入居者、家族の方には自由に出入りしていただいている。職員同士で声を掛け合い、お一人お一人の行動の確認、見守りをおこなうとともに、近所の方にも、何かありましたら協力、連絡をいただけるようお願いに行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、2ユニット合同で災害時の訓練をしているが、全職員、利用者、消防署が参加し、火災時、地震、水害、夜間などを想定しての訓練もおこなっている。また、災害時に備えた備品は、懐中電灯、飲料水用ポリタンク、毛布、ポータブルトイレ、排泄物の凝固剤、ポータブルラジオなどを準備している。	○	災害時には、地域の方へ、緊急連絡網を活用した協力依頼をおこなうようになっているが、今後は、非難訓練時に、事業所だけではなく、地域住民の方の参加協力もいただきながら定期的に訓練をしていきたいと考えている。また、災害時の備品として、食料、飲料水なども含めて、どの程度必要かの量の検討もしていかれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者のお一人お一人の食事に関する好みを把握するために、定期的に嗜好調査(聞き取り)をおこなっている。代表は、「食事が一番大切である」と考えており、利用者の好みを大切にしている。個別に肉を魚に変更したり、食べやすいような配慮をするなど、お好みに応じた食事が提供できるよう工夫している。食事量、飲水量ともに、把握、記録している。	○	運営者である代表が栄養士であり、今後、栄養バランスの偏りがないか、美味しい食事が提供できているかのチェックをおこなっていきたいと考えている。たとえば、運営推進会議のメンバーの方や家族の方にも時々食事を食べていただき、意見をいただくなど、代表を中心として、さらなる食事への取り組みを期待していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前、代表のご両親が使われていた昔ながらの冷蔵庫やソファなどを活用し、和と洋をみごとにマッチングさせながら、共有空間のレイアウトを考えている。馴染みの場所、席ができていても多く、ホームの周囲に咲いている季節の木々や花を利用者が摘んできて食卓に自然に飾られている。時には家族の方が持ってきてくださったお花が飾られるときもある。居心地の良い空間が作られている。リビングから見える海は最高の眺めになっている。	○	今までは、職員主体でリビングなどのレイアウトを考えていた。今後は、利用者の視点で、第三者にも確認しながらレイアウトを考えていきたいと考えている。運営推進会議のときなども活用し、皆様の意見をいただくのも良い方法と思われる、さらなる居心地の良い空間作りがおこなわれることを期待していきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族の方々と、一緒に相談しながら、いす、テレビ、位牌など持ち込まれており、入居者にとって慣れ親しんだものに囲まれるよう配慮している。お一人お一人が安心できる部屋作りを続けている。	○	消防署の指導もあったとのことで、カーテンと同様、カーペットも防炎にしていく予定である。より安心、安全な空間になっていくことを期待していきたい。